

会議録

会議の名称	平成 29 年度第 2 回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	平成 29 年 10 月 11 日（水） 午後 7 時
開催場所	西東京市役所西東京市役所防災センター 6 階 講座室 1
出席者	<p>【委員】熊田委員（委員長）、新井委員、滝沢委員、篠宮委員、小平委員 中野委員、中村委員、渡辺委員、櫻井委員 （欠席者）伊藤委員、小野委員</p> <p>【事務局】生活福祉課長、健康福祉部（生活福祉課）主幹、健康福祉部（生活福祉課）副主幹、生活福祉課調整係長、生活福祉課調整係 2 名</p>
議題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）平成 28 年度地域福祉計画進捗状況について（報告）</p> <p>（2）地域福祉計画に関する国等の動向について</p> <p>（3）市民アンケート調査の実施について</p> <p>（4）地区懇談会の実施について</p> <p>（5）今後のスケジュールについて</p> <p>（6）その他</p> <p>3 閉会</p>
会議資料の名称	<p>資料 1－1 第 3 期西東京市地域福祉計画の体系</p> <p>資料 1－2 第 3 期西東京市地域福祉計画の進捗状況（平成 28 年度）</p> <p>資料 1－3 第 3 期西東京市地域福祉計画進捗状況調査票</p> <p>資料 2 地域福祉に関する主な国の動向等について</p> <p>資料 3－1 第 4 期地域福祉計画策定スケジュール（案）</p> <p>資料 3－2 第 4 期地域福祉計画策定にあたっての作業内容（案）</p> <p>資料 4－1 地域福祉に関するアンケート調査</p> <p>資料 4－2 地域福祉に関するアンケート調査（民生委員・児童委員用）</p> <p>資料 5 第 4 期地域福祉計画地区懇談会の開催について</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）平成 28 年度地域福祉計画進捗状況について（報告）</p> <p>○ 事務局 ――――資料 1－1、1－2、1－3 に沿って説明―――</p> <p>○ 委員長</p>	

第3期計画の進捗状況について報告に関して、お気づきの点、ご質問等はないか。

○ 委員

体系の中で、基本目標3の(2)「多様な生活課題への対応」の⑤「路上生活者への自立支援」とあるが、西東京市に路上生活者がいるのか。

○ 事務局

生活福祉課で把握している路上生活者は、1名である。

○ 委員長

本当に路上で生活している人の他にも、例えばネットカフェのようなところで生活している方もいると思う。そういった方に対する取り組みについては、生活困窮者支援ということで計画の中に出てくると思うので、そこでまたご意見を頂きたい。

事務局に質問だが、「評価」と「貢献度」の違いは何か。貢献度というのは、それを実施したことで何かインパクトを与えたかという理解でよいか。

○ 事務局

そのように考えている。

○ 委員長

「評価」はやったかどうか、「貢献度」は、それをやったことによって何か地域や社会に影響があったかということである。やっちはいるけれども、貢献できてないというところは、1つのポイントになると思う。逆に、実施はあまりできていないけれども、貢献度は高い、つまり、地域や社会に対して大きな影響を与えたものもあるかと思う。そういう視点から、再度、各委員でこの詳細に目を通していただければと思う。

○ 委員

この評価は住民や参加している方の意見ではなく、行政側が貢献できたかどうかを判断したものなのか。

○ 委員長

そうである。住民の意見を採るのはこれからの調査になる。これは市内での評価なので、西東京市の職員が、あまり貢献できてないと感じているとなると問題だが、貢献度も比較的高い数字が出ているので、この5年間、この計画に沿って頑張って取り組めたと、職員が考えていると読んでいいと思う。

○ 委員

実施ができたかどうかの判断は、例えば何かの催しについて、参加の目標人数に対してある程度以上の参加人数が得られた時に、実施できたという判断になっているのか。それとも、人数等に関係なく、実施すれば実施と判断しているのか。

○ 委員長

第3期の計画の中では細かい数値目標は表記していないので、数値による評価はしていないという理解でいいと思う。

○ 事務局

委員長のおっしゃるとおりで、この調査は数値ではなく、担当課の自己評価で回答してもらっている。

○ 委員長

第3期計画を作る時に、具体的に数値目標を掲げるのは難しいという意見があり、現行計画ではほとんど数値目標を定めていない。第4期についても、全部に数値を載せるのはかなり大変だと思うので、ここは数値目標を載せたほうがいいのかというところがあれば、ご意見を頂きながら、若干数値目標を入れていくのは、方向としてはあり得ると思う。

○ 委員

2つ意見がある。まず、先ほど委員長から、評価と貢献度に微妙にずれがある部分が、これからのアンケートの1つのポイントになるという話があったが、資料1-2では評価と貢献度はほぼ同じ印になっている。担当課が答えるのであれば、評価が高ければ貢献度も高くなるのは当たり前なので、この評価と貢献度というあり方がいいのか、疑問を持った。

2点目に、評価と貢献度のところで棒線が結構ある。この棒線は該当事業なし、または当該年度の事業予定なしということだが、必要なのに実施されてないのか、必要ないから放置されているのか等はこのデータからは見えない。これはまさに次の計画作りに関わると思うので、洗い直しはされるのか。

○ 事務局

2点目の棒線になっている事業については、この計画を立てる段階では各課に確認をした上で載せたものだが、この進捗状況の調査を出した時点で齟齬が出ているのではないかと。そういう事業について、次の計画を立てる時には、あらためて精査をしたいと思っている。

1点目の評価のあり方については、今回は担当課による進捗の評価ということで調査したが、ご意見を頂いて、これからは評価指標のような、もう少し確立したものを設定していく必要があると感じている。

○ 委員

資料1-2の2ページの(2)の右の欄に「市外から転入してきた方に自治会・町内会に関するパンフレットを配布することで加入促進の取り組みを行った」とあるが、西東京市はそもそも自治会が少ない。ないことには入ることもできないが、市として自治会の設置の促進などはしているのか。

○ 事務局

自治会については、協働コミュニティ課のほうで支援を行っている。

○ 委員長

地域活動のところは第4期の計画でも非常に重要なポイントになってくるので、自治会・町内会がないエリアで、どういう形で周知・広報ができたのかなど、事務局で情報収集をしていただければと思う。

先ほど事務局から話があったように、複数の部署にまたがっている事業の進捗が比較的良くない傾向が見られる。複数の部署にまたがっているということは、それだけ重要ということだと思うので、そこをどのように進めていくか、考えていく必要があると思う。

(2) 地域福祉計画に関する国等の動向について

○ 事務局 ———資料2に沿って説明———

○ 委員長

その時々の方針によっては方針が一部変わるかもしれないが、地域で各分野を統合化していくというトレンドは変わらないと思われる。計画というのは各論的に高齢者、障害者、児童というように縦割りで作られているが、この地域福祉計画は横串を刺すような計画なので、今の国のトレンドを反映せざるを得ない。そういう観点から、次の計画を考えていただければと思う。

ご質問、ご意見等はないか。

(意見など特になし)

(3) 市民アンケート調査の実施について

○ 事務局 ———資料3-1、3-2、4-1、4-2に沿って説明———

○ 委員長

ご質問、ご意見等はないか。

○ 委員

2,500人という母数の根拠を教えてください。20万の人口で、介護、障害、地域を含めた全体のアンケートをするときに、2,500人というのは妥当なのか。

○ 事務局

地域福祉計画のアンケートでは、他自治体では2,000件で実施することが多い。根拠としては、どういう人口規模だとしても、800~1,000件くらいの回答があれば、ある程度統計的な信頼が得られるからである。回収率が4~5割と考えると、2,000件くらいとなる。西東京市はプラス500件ということで、少し厚めに行っている印象である。

○ 委員長

ある種の代表性をどれだけ担保できるかが重要であって、人口は前の計画より増えているが、人口に比例して増やす必要はないということだと思う。問題はどれだけ回収できるかで、2,500件配っても、100件しか回収できなければ意味がないし、仮に1,000件配って900件回収できれば、かなりの信ぴょう性が出てくるということになる。そういう意味では、回収率をどう上げるかがポイントになってくると思う。

○ 委員

アンケートの1ページに「近所づきあいやボランティア活動、地域福祉活動等に関するアンケートを実施する」とあるが、今回の計画は、第3期の基本方針や基本目標と似ているので、そこに沿ってアンケートを採れば、庁内の自己評価と市民の評価がリンクするように思う。

○ 委員長

考え方はいろいろあると思う。例えば、第3期計画の柱ごとの評価という形でアンケートを採ると、新しい動向が取れなくなってしまう。また、第3期の評価であれば、アンケートではなく、住民懇談会等の別の形で採るという方法もある。このアンケートについては、今、西東京市に暮らしている方がどういう近所付き合いを持っているか、何か活動をしているか、その中でどういうことに課題を感じているか、今の市の施策についてどう感じているかなどについてざっくりと採ったほうが、データとしては使い勝手がいいというのが、私の理解である。事務局としてはどうお考えか。

○ 事務局

委員長と同様の理解である。

○ 委員長

また、第3期計画の時のアンケート調査と同じにすることで、経年比較ができる。例えば、第3期を作った時と比べて、住民の活動が意外に低迷しているとか、ここの部分は非常に盛んになってきているといったことを見ることのできるの、あまり大きく変えないほうがいいのではないかと思う。

○ 委員

私も当初は委員長と同じ考えだったが、議題（1）の評価と貢献度の話の中で、庁内の自己評価ではなく、市民の人たちが感じていることをアンケートに反映するという説明があったので、先ほどの意見を出した。今の市民の実態を経年で把握して、次の計画に生かしていくというやり方は正しいと思う。

○ 委員長

ただ、第3期のものをそのまま横滑りで聞くというわけではなく、例えば、先ほどの貢献の部分について、住民が活動をできているか、活動できる環境があるか、地域の中で課題を解決できるような体制があるかといったところを少し厚く聞けば、庁内評価ではこのような結果になっているが、アンケート調査のほうではそのようには出ていないという読み方ができる。そういう意味で、前回と少し聞き方を変える部分もあっていいのではないかと思っている。

○ 委員

先ほど委員長がおっしゃったように、どれだけ市民の方が返してくるかというところはとても大事だと思う。そのためにも、市民用のアンケートの2ページに書かれていることで、違うと感じるところや、少し変えたほうがいいと思うところがある。

まず、「地域福祉って何？」のところの文章について、この書き方では、とても狭く身近なところだけの地域福祉になってしまっており、計画の趣旨とはだいぶ違う。また、「ちょっとした不安」として、子どもの登下校の不安や災害時の対応を例に挙げられていて、そういうことをとても簡単なものと考えているように取られる恐れがある。「不安や不便」「心配」という言葉がこの5行の中に3回も出てきており、発想が乏しく感じる。地域福祉を説明するのであれば、例えば、第3期計画の3ページの「地域福祉とは」のところに書かれている、暮らしやすい地域づくりを進めるとか、それを行政や市民が協力して進めるといったところを引用して、これからいい方向に行くのだという明るい構想ができるような文章にしたほうがいいと思う。白板の絵の文章も、「地域福祉とはそういった不安や不便を解消する」とあるが、それだけではないと思う。

次に「地域福祉計画が目指すもの」のところの文章について、「西東京市では「地域でふれあい 支え合う 心のかようまち 西東京」を目指し、共に生き支え合うまちづくりを進めています」とあるが、計画の1ページでは、「互いに支え合う」という表現が使われてい

るので、「共に生き」ではなく「互いに支え合う」としたほうがいいのではないかと。

最後に、一番下の「いこいな」の吹き出しについて「市民参加の一環として」とあるが、前回のアンケートで、市民参加はしたくないと思っている人が結構いた。そういう人は、市民参加の一環と書かれていると答えたくないと思うかもしれないので、例えば「暮らしやすい地域づくりを進めるために、あなたの大事なご意見を聞かせてください」など、全ての市民が答えやすいような言葉に変えていただきたい。

○ 事務局

計画書と文言が合っていないところについてはご指摘のとおりだと思ふ。他のご指摘についても、委員が提案されたような表現のほうがいいと思ふので、反映させたいと思ふ。

○ 委員長

第3期の計画で掲げているものが第4期に移って大きく変わるということはないと思ふので、ご意見のように、第3期で使われている文言を生かして書かれたほうがいいと思ふ。

地域福祉とは何かという文章の中で、不安や不便という文言を使っているのは、逆に、このように書いたほうが答えてもらいやすいと、事務局サイドでは考えられたのではないかと。ただ、確かに、もう少し前向きな文言もあっていいと思ふので、今のご意見を反映する形で検討していただきたい。

○ 委員

問12の地域の課題について、6番に「交通手段が整っていない」という項目があるが、もう1つ、最近では近所に店がなくなるなどして、高齢者の方が買い物で苦労されているので、「買い物に不安を感じている」といった項目を加えていただけないか。

○ 委員長

今のご意見を入れることは可能だと思ふ。ご異論がなければ、6の「移動手段が整っていない」の次に「買い物に行くのに不便を感じている」といった項目を加えることとしたい。

○ 委員

私どものNPO法人では、どうしても見てもらいたい郵便物には、封筒の表に「何々です、ぜひご覧ください」とか「何々の材料です。皆様のご協力をお願いします」というステッカーを貼っている。というのは、災害支援で被災者の方にいろいろな情報を流した時に、郵便が山ほど来て、中を見ずに置いたままにされていたケースが多かったからである。今回のアンケート送付の時には、そういうことはされるのか。

○ 事務局

封筒に、いこいなイラストと、こういうアンケートですということを記載している。

○ 委員長

回収率を上げるためには、封筒の工夫等も確かに重要だと思う。

今、並行して地域福祉活動計画も動いており、そこでもアンケートを行われるが、社協のお立場からご意見等はないか。

○ 委員

地域福祉活動計画のほうのアンケートは、社会福祉協議会の事業に関わっている方を対象に、1,500件で行う。アンケートの内容については、市と社協の事務局とで調整しながら、整合性をとってやっていきたいと思っている。

○ 委員長

地域福祉計画と活動計画で切り分けて実施するが、補強の意味で、それぞれの結果をある程度共有する必要はあろうかと思う。

○ 委員

アンケートで経年的な変化を見るという話が先ほどあったが、取り組みに対する質問だけではなく、今、社会がどう変わっているか、モニターできる設問もあるといいと思う。例えば、この計画を知っている人がどれだけいるか、この計画によって何か良くなったところがあるかというような質問を加えると、この計画の浸透具合が第1期から第3期でどう変わったかが数字として出る。そういう数字も有効なのではないかと思った。

○ 委員長

この計画について知っているかどうか、この計画で大事にしているところが良くなったかどうか等を聞いて、そこも含めて分析してはどうかというご意見である。確かに、この計画によって実現しようとした地域や社会が、どのくらい実現できたと思っているかということは、聞いてみてもいいのではないかと思った。スペース的な問題や、設問があまり増え過ぎないほうがいいということもあると思うが、事務局としては、どう考えられるか。

○ 事務局

今の設問数がこのページ数に入る最大となっている。しかしながら、頂いたご意見もそのとおりだと思うので、委員長とも相談しながら、少し検討させていただきたいと思う。

○ 委員

問14と問25は質問が非常に類似しているので、どちらかを削除すれば、新井委員のお

っしやった質問を加えられるのではないか。問 25 は「新規」となっているが、このような類似した説明を設けた意図は何か。

○ 事務局

問 25 を新規に設けた意味は、第 3 期の計画で「ほっとネット」というところを柱としていたので、その辺りの状況をつかむために、選択肢に「生活支援コーディネーター」等を入れた設問を追加した。

○ 委員

そういうことであれば、問 25 の中に包含できるので、問 14 は要らないのではないか。

○ 委員長

問 14 は誰に手助けを頼みたいかということで、具体的なサポートを誰に求めるかということを知る設問で、問 25 は「我が事・丸ごと」の中で総合相談体制をつくっていくことを念頭に置いて、サポート等についての相談を誰にしているのかを採りたい設問なのだろうと私は解釈している。例えば、介護が必要になった時に、誰に助けてもらいたいかと、誰に相談を聞いてもらっているかは、イコールではない場合もあるので、分けて聞いているのだと思うが、確かに同じような設問でしつこいようにも感じる。この 2 つは合体させたほうがいいか。

○ 委員

一見すると求めているものの違いが分からなかったもので、一方は削除してもいいのではいかという意見を出したが、必要であれば残していいと思う。

○ 委員長

新井委員の意見も含めて、事務局と相談して、問 14 と問 25 を合体させるかどうか考えたいと思う。

○ 委員

精神科の病院に入院している方は、長い方は 40 年以上も医療機関の中で生活しており、地域とのつながりが全くないという方が多い。その方たちがどのようにこのアンケートに答えるのかというイメージをしながら、皆さんの意見を聞いていた。多分、患者さん 1 人では無理だろうから、職員が手伝いながらアンケートに答えることになるとは思うが、福祉の用語や事業等、患者さんには分からないだろうと思う。質問の内容も難し過ぎるように感じる。また、先ほど他の委員からご指摘があったような、似たような質問があると、もうそこで嫌になったりすると思うので、できるだけシンプルにさせていただいて、地域で暮らすこと

が難しい方たちの声も吸い上げていただきたいと思った。

○ 委員長

施設や病院で生活されている方が誰ともつながってないという姿が出てくるということにも、意味があると思っている。例えば問6の「あなたのお住まいの形態は」では「その他」というところにプロットされてくると思うが、それによって、施設や病院で生活されている方はつながりがないという実態が分かることになる。

説明が難し過ぎるというご意見については、認知度を測る質問以外のところでは、難しい言葉は別の表現に変えるとか、注釈を付けるなどしたいと思う。皆さんからも、分かりづらい表現等、お気付きのところがあれば、事務局までお知らせいただきたい。

アンケートについてのご意見はいつまで受け付けていただけるか。

○ 事務局

今週中をお願いしたい。そこまでに頂いたご意見を反映したものを、最終的に委員長に見ていただいて決定するという形にしたいと思う。

○ 委員長

委員長と事務局に一任いただけるとありがたい。お気付きになったことがあれば、今週中に事務局までお寄せいただき、私と事務局とで相談して確定させていただきたいと思う。

○ 委員

2,500人の無作為抽出ということだが、どういうふうは無作為抽出するのか。

○ 事務局

今の20万人の人口を町比率、男女比率で割り、その割合に基づいて抽出している。

○ 委員長

町の人口に比例して出すが、特定の町が、回収率が高いということもあり得る。それも、逆に言うと、アンケートに協力的な地域がどこかというデータになる。結果をどう読むかというのは今後の検討になろうかと思う。

(4) 地区懇談会の実施について

○ 事務局 —————資料5に沿って説明—————

○ 委員長

アンケートでも市民の意見を頂くが、地区懇談会を実施して生の声も拾うというのが、今

の計画策定のトレンドとなっている。1ページに3つの案が示されているが、それぞれに長所、短所がある。地区懇談会では、ただ単に地域の現状や課題だけを出すのではなく、それをどのようにして解決できるのかというような、市民サイドに立った解決アイデア等を拾っていくことが、もう1つのポイントとなる。そういうことも含めて、この3案のどれがいか、または、これ以外の案など、ご意見を頂きたい。

○ 委員

1期、2期、3期でも市民の意見を聞いてこられたと思うが、参加した方から、回数が少ないとか、多過ぎる等の意見が出たことはないのか。

○ 事務局

そういうことは確認していないが、前回の「3回シリーズ」では、夜の時間帯にほぼ毎週という形で行った中で、参加者がだんだん減っていったり、3回全てには出られない方がいらっしまったことから、少し負担が大きかったのではないかと想像している。

○ 委員

前回の懇談会に出たのだが、回を重ねるとチームのようになって話が盛り上がり、いろいろな意見が出たので、回を重ねる意味はあると思う。

○ 委員長

地区懇談会の取り組み自体が地域づくりの一環のようなものなので、そういう意味では何度も開催したほうがいいが、事務局には多大な負担が掛かるという点も考慮して、少ない労力で最大の効果を出すことが、1つのポイントになるだろうと思う。

開催時間については、夜にすると昼しか出られない人は参加できないし、昼にすると働いている人が参加できないということで、2回を昼夜で2回実施という案が出てきたのだと思う。ただ、そうした場合、2回しかないので深まりは少なくなってしまうということで、真ん中の、3回×4圏域で、プラス1回、全圏域合同で集まる会をするという案と、とにかく深めるという4回×4圏域の案が示されている。

○ 委員

対象が市民・福祉関係者になっているので、市民と福祉関係者での違いもあると思う。市民であれば、3、4回というのは負担感があるし、地域福祉関係者であれば回を重ねて深めていったほうがいいのかと考えるのではないかと。ただ、地域福祉関係者については他でも意見の吸い取りができると思うので、どちらかということと市民が来やすい形にして、時間帯についても、昼間と夜で違う市民が来るのであれば、そういう違うフェーズの人たちが参加できるような形にしたほうがいいのかと思う。

○ 委員長

事務局としては、この3案の中でどれが一番いいとお考えか。意見を言うための材料として、事務局の経験等を聞かせていただきたい。

○ 事務局

私の意見だが、前回の懇談会の実施の中で、2ページの「日程及び参加人数」にあるように、「1回シリーズ」の参加者が西部、南部で少なかったところは、1つの課題だと思う。ただ、先ほど中村委員からもあったが、回を進めていくほど盛り上がったという意見は他からも頂いているので、「3回×4圏域+1」の案がいいように私は感じている。

○ 委員長

その場合、開催時間は夜か。

○ 事務局

そう考えている。

○ 委員

夜開催だと子育て世代が参加しにくい。3ページの分類別の人数でも、「育成会」からの参加は少ない。

○ 委員長

どのくらい参加が見込めるかということも大事な要素になってくると思う。仮に、今、事務局がおっしゃられた案で夜開催となった場合、中村委員がおっしゃったようなことが課題として出てくる。

地区懇談会を実施するにあたっては、社協のサポートも受けると聞いているが、社協の立場としてはこの3案のうち、どれがいいか。

○ 委員

私個人の意見であるが、3回×4圏域+1の案がいいように思う。なぜなら、最後に全圏域が集まって発表会をすることで、この計画を進めていこうという共有ができるからである。前回の「“広げる”1回シリーズ」は、3回シリーズとは別物として市民に呼び掛けたから、あまり人が来なかったのではないかと思う。

○ 委員長

夜の回と昼の回の両方入れる形にするとメンバーの統一性が図れなくなるので、どちら

かに固定せざるを得ないと思う。これはシリーズで出してもらわないと駄目なので、昼に開催したほうが出てもらいやすいようであれば、昼でも構わないと思う。何を重要視するかというところで考えて、働いている人を広く集めたいのであれば夜にすべきだし、地域に実際にいる、昼の市民をターゲットにするのであれば昼間ということになると思う。

○ 委員

前は、構成メンバーに働いている人が多いということで、夜開催に決めたのだと思う。今回も構成メンバーは同じなので、夜のほうがいいのではないかな。

○ 委員長

今の話の中では、4回×4圏域がいいという意見は出ていないので、3×4の案か、2×2の案か、3×4の場合は昼か夜かというところが論点になってくる。

○ 委員

構成メンバーの団体は、会議や連絡会等を昼間に行うところが多いのではないかな。例えば、ささえあいの懇話会も昼間に実施されているし、包括の場合、夜は超過勤務という形になる。関係団体の方については、昼間に業務の一環として出るほうが、出やすいのではないかなと思う。

○ 委員

民生委員も会議等は昼間に行っている。

○ 委員

昼間にすれば、地域で暮らしている方や子育て世代にも入ってもらえることができる。

○ 委員長

そういう面では、確かに昼間がいいと思う。これは1つの案だが、3回は昼で、最後の+1回だけを夜にしてはどうか。そして、夜の回には、3回シリーズに関わったメンバーだけでなく、働いている方にも来てもらえるような形にするといいと思う。今まで、昼にやったことはないのですが、これまで参加できなかった人の意見を聞くという意味でも、昼開催を検討してもいいのではないかな。最後の1回を夜に行うことで、昼開催に参加できない方の意見も聴取できる。

○ 委員

それでいいと思う。

○ 委員長

ご異論がなければ、最後だけ夜開催で、あとは昼開催ということにしたい。委員の皆様もお時間が許せば、ぜひ参加していただければと思う。

3回の細かい内容については、4ページに前回の「“深める”3回シリーズ」の内容があるが、1回目で現状と課題を洗い出し、2回目に解決のアイデアを出して、3回目に重点プロジェクト、アクション等を決めるという流れだった。いい形だと思うので、今回もこれを踏襲してはどうかと思うが、いかがか。こういう地区懇談会というのはファシリテーターの力がポイントとなる。今日は、3回シリーズのおおよその流れまで決めたいと思う。3回の内容については、前回は踏襲するというところでよろしいか。

○ 委員一同

(異議なし)

(5) 今後のスケジュールについて

○ 事務局 ————今後のスケジュールについて説明———

(質問など特になし)

(6) その他

○ 委員長

その他、委員の方から何かないか。

○ 委員

消防署から、救急医療情報キットのご紹介をさせていただきたい。救急医療情報キットというのは、ひとり暮らしの高齢者等に配布しているもので、筒状のものの中に、緊急の連絡先やかかりつけの病院など、いろいろな情報を書いたものを入れて、冷蔵庫の中に入れておいてもらうことで、本人が倒れるなどして救急隊が行った時に、それを見ればいろいろな情報が分かるというものである。これは23区でも配っているのだが、あまり有効に使われていないと聞いているので、ご紹介させていただいた。これは、65歳以上の方に無料で配布している。

○ 委員長

ぜひ活用していただけるように、各お立場から周知していただければと思う。

以上で、本日の委員会を終了する。